



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第81号

てんまてんじん



敬神婦人会・采女講

敬神婦人会	2 頁
樋屋製菓四百年祭	3 頁
天神講獅子三百年	4 頁
大祓詞書写会	5 頁
鎮花祭	6 頁
天御守	7 頁
新連載 境外の天満宮・天神祭(一)	7 頁

敬神婦人会会長就任のご挨拶



寺井圭子

このたび伝統ある大阪天満宮敬神婦人会の会長を務めさせていただくなりました。まだまだ未熟で若輩の身ではありますが、どうぞご指導くださいますよう宜しくお願ひいたします。

当会は、全国敬神婦人連合会に加盟、大阪府敬神婦人連合会に所属し、昭和三十一年に発足、初代会長を祖母の寺井徳子が務め、平成五年には佐藤裕子様が二代目会長に就任され、その後平成七年に母である寺井紀美子が務めさせていただきました。

結成当初から多くの会員数を誇る全国でも有数の敬神婦人会です。現在活動としては、天満天神えびす祭でのご奉仕や新年互礼会、天神祭では渡御の供奉と采女・稚児のお世話、七五三の時期には境内でのご奉仕をさせていただいています。

また、親睦旅行、神宮参拝や全国大会への参加などが通常の活動ですが、新型コロナウィルスの影響で最近は思ったような活動ができておらず、大変残念に思っております。現

在家庭や社会の中での女性の果たす役割は大きく変化をしておりますが、敬神婦人会の名通り神様を敬い、様々な角度から神社のお手伝いをさせていただければ幸いです。

私が団委員長も務めさせていたいております。スカウトから敬神婦人会の会員になつていただき、次世代の大坂天満宮の力になつていただきたいと思つています。

最後に、敬神婦人会では新規会員様を募つております。どうかお誘い合わせていただき、より多くの方々と共に活動をしてまいりたく存じますので宜しくお願ひいたします。

敬神婦人会のあゆみ 敬神婦人会の発定

昭和三十一年六月に宮司寺井種長が大阪府神社庁長に就任されたのに伴い、八月には徳子夫人（寺井種伯名誉宮司母堂）が大阪府敬神婦人会連合会委員長に就任されました。

その時点では当宮に敬神婦人会が存在してなかつたので、徳子夫人が尽力され同年十一月二十七日に本殿

にて大阪天満宮敬神婦人会の発会式が挙式される運びとなりました。

発足当初は、会長・役員などはな

く、翌年六月三十日に開かれた第一回総会において会員の皆様から寺井徳子夫人が推挙され、会長に就任されました。

そして、昭和三十三年には、三月二十六日から三日間にわたり、当宮において全国敬神婦人会中央委員会が開催されるなど、順調に活動してまいりました。

敬神婦人会の活動

大阪天満宮敬神婦人会は、会員相互の親睦を深め、社会福祉活動や国旗・国歌の啓発活動を中心としてお道の正しい信仰の徹底に尽くしております。発足以来、今年で六十六年目となり、現在は地域の皆様のおかげで約二百名の会員を有する会となりました。

会の活動といたしましては、一月に今宮戎神社のおみくじ奉仕、天満天神えびす祭吉兆場・おみくじ奉仕に始まり、新年互礼会、春秋季の参拝旅行、天神祭の陸渡御列へ奉仕し、采女・稚児行列のお世話、七五三の時期には、社頭でのお土産販売奉仕などがあります。

采女は、戦前には八処女といい、大阪四花街（北新地・南地・堀江・新町）の芸妓さんが務められていましたが、戦後は氏子さんのお嬢さん方に出ていただいており、現在は広く親しんでいただくため、一般の方も参加可能となつております。采女の世話は「敬神婦人会・采女講」として尽力されています。

以上の活動は、結成から今日に至るまで多くの会員の皆々様の並々ならぬお力添えによつて支えられてきましたのです。



樋屋製薬株式会社

創業四百年奉告祭

江戸初期の「奇応丸」

当宮の氏子区域には老舗といわれ
る会社・商店が数多くありますが、
なかでも、屈指の有名会社である樋
屋製菓株式会社様は、今年で創業四
百年の佳節を迎えられ、三月二十二
日に本殿において奉告祭を斎行され
ました。



江戸前期の御帳台

奉告祭にあたつては、江戸前期の
延宝八年（一六八〇）に二代目・忠
兵衛（善右衛門）が奉納した御帳台
が、神庫から出されて拝殿に奉安さ
れ、参拝後には寺井宮司も加わつて
この御帳台とともに記念撮影も行わ
れ、お祝いを申し上げました。

当宮との深い関わり

れ、参拝後には寺井宮司も加わってこの御帳台とともに記念撮影も行われ、お祝いを申し上げました。

存協賛会の役員にも就任いただいて
おります。

奉寄進御帳願主摠津國山本住
坂上善右衛門
延寶八庚申年十一月大吉日
取次 祀官祝 種室
種室



当日は、坂上隆彦社長を始め、役職員が参列、厳粛に創業四百年を奉告し、神恩感謝の誠を捧げられました。

坂上家は、戦国時代の永禄六年（一五六三）に摂津国山本村から天満の地へ移り住み、江戸初期の元和八年（一六二二）には、初代・坂上忠兵衛

この信仰をなされておられます。
そして現社長で当主である十五代
の坂上隆彦様は、大阪天満宮の総代を
お勤めいただき、天神祭渡御行事保

じ、あらためて大神の御恵みに感謝するところであります。 横屋製薬株式会社の益々の御隆昌を祈念申し上げます。

が「奇応丸」を初めて作ります。

「奇に出でて変に応ずる」とのこ
とから名付けられたこのお薬は類希
なる妙薬として世に広まり、幼児等
の健やかな育みには欠かせぬものと
なり、現代においてもなお、その薬
効は変わることなく多くの方が愛用

天神講獅子 三百周年記念式典

昨年十一月十四日、帝国ホテル大阪において、「天神講獅子三百周年記念式典」が行われました。本来は、一昨年の五月に予定されていた式典なのですが、新型コロナ感染症のために昨年五月に延期し、さらに再延期によつて、この度の開催に至つたものです。

同日十一時三十分から同ホテルの孔雀西の間に招待・関係者百十名が出席し開催されました。開式にあたり、森本幸一講元のご挨拶とともに、寺井種治宮司に三百周年記念の奉納目録が手渡されました。奉納品は「御神鏡」「獅子頭」、および天満宮会館に設置する「煙草分煙機」です。

続いて来賓の挨拶に移り、寺井宮司、当宮文化研究所の高島幸次研究員、住吉大社の富澤昇権宮司、衆議院の美延映夫議員、大阪府議会の久谷眞敬議員、大阪市議会の高山美佳議員、さらに大阪シティ信用金庫、セブンイレブン、キリンビールの代表の方々から心温まる祝意を述べられた



一昨年と昨年は天神祭の神賑行事が中止されたこともあり、久しぶりにお会いされる方も多く、楽しそうな歓談のひとときとなりました。また、会の半ばには、六十数年ぶりに復活された獅子舞「神殿刀の舞」が披露されました。この舞は、今後も特別な節目にしか披露されない珍しい舞で、スマホで録画される方も多くいらっしゃいました。

終宴には、天神講獅子の講元・幹部が舞台に上がり、「大阪締め」でお開きとなりました。

その反面、厄年への関心の高まりでしようか、お正月に厄除けをする人が増えてきたようです。特に近年は若年層の祈願が増えたように思ひます。その結果、従前は正月のご祈祷は合格祈願が大半だったのが、厄除け祈願が一番多くなりました。

厄年は、男性と女性では異なり、本厄は男性が数え年で二十五歳、四十二歳、六十一歳、女性が十九歳、三十三歳、三十七歳です。

一般には厄災が多く降りかかるとされる年齢を意味し、陰陽道が由来という説もありますが確かにではありません。いずれの厄年も前後一年を前厄、後厄としていますが。もとは男四十二歳、女三十三歳の前後だけをいつたようです。地方によつて年、習慣が違つていますが、都市に多様な地方の人が集まるので、それらが混同したり追加したりされていったようです。情報、知識が多く集まるので、それも厄年が拡大される要因かと思います。

厄年の文献上の初見は、平安中期の『宇津保物語』とされており、戸時代の『和漢三才図会』などにも記載されています。

平安時代の貴族は、毎年厄払いをしていたようですし、江戸時代に入ると暦の普及とともに厄年も普及し神社仏閣での厄除けが流行したとのことです。が、諸説あつて有力説といふのはないようです。

ともかく現代人にとっては「生きにくい」世の中になつて、これらの年齢には様々なことが重なつてうまくいかない時期がやつてくるのかもしれません。厄年に科学的な根拠はないようですが、経験則的にこの時期に人生の節目があつたり、そこに生活習慣病などで身体の異常がはじまつたりすると「これは厄年だ」ということなのでしょう。

古くから伝わる習慣ですが、人間が抱く様々な不安がそのはじまりであつて、ごく自然なことですので、気にするのもよし、気にしないのもよし。というところでしょう。

社務所 電話番号
よくあるお問い合わせ

『厄年』



大阪天満宮では、新型コロナの早期終息と市中平安を祈念して、「大祓詞（おはらえのことば）書写奉納参拝事業」を、一般の方々を対象にして昨年十一月より継続的に実施しております。

「大祓詞」とは、神道の祭祀で奏上される祝詞(のりと)の中でも特に重要とされ、当宮でも日々毎朝、神職が本殿にて奏上しているものです。書写会は、昨年十一月二十九日を第一回目として実施。今後も毎月二十五日前後に開催していく予定です。

第一回に参加された方々(三十名様)からは、概ね

樂しかった、普通では滅多に無い経験が出来た、などと高評価を頂きました。「天満宮会館」のお部屋で、神職による大祓詞についての説明や講話を聽いて、約一時間の書写会。その後、本殿に移動し、神職と一緒に「大祓詞」の奉納と参拝を行います。

なかなか一時間では最後まで仕上げるのは難しく帰宅後にも続きを書写していました。後日書き上げた大祓詞(大阪天満宮社務所印のある用紙)をご持参いただきましたら「大祓詞書写奉納証明書(日付入り御朱印)」をお渡しいたします。

また、書写会以外でも、「大祓詞の書写用紙」を広く頒布させていただき、奉納一万巻を目指す事業として、広く参拝者、崇敬者の皆様と共に、悪疫退散を願う事業にさせていただきたく考えております。

一度だけでも、連続しての書写でも結構です。多くの方々のご参加をお待ち申し上げております。(一回の参加定員は、五十名です)

■ 参加費用

◎書写会 三千円
書写用紙セット(用紙一枚と筆ペン一本入り)と書写会、奉納参拝。

※料金改定いたしました。(書写会のみでも奉納参拝付でも三千円です)

◎書写用紙セットのみ 一千円
(書写会参加者で追加をご希望の方)

■ 申し込み方法・お問合せ
info@osakatemmangu.or.jp
メールか電話で、大阪天満宮書写会担当・広報企画室まで。

大阪天満宮献詠 風月社
令和四年 上半期秀歌
06-6353-0025

大花火たゝ中をゆく川渡御の
奉拝船にわれもつらなる
幹事 佐野 秀子
去年(こそ)と言ふ数多(あまた)のこと
合はすもろ手に初日影さす
幹事 松村 曜二
おだやかな冬日に母を訪ねゆき
昔話に花を咲かせし
東大阪 乾 恵子
あたたかき笙の音色も加はりて
舞楽の舞のおごそかにすすむ
東大阪 乾 恵子
おこそかに雅楽の音色御神楽(みかぐら)に
いにしへ人の思ひしみる
大阪 伊藤 凉子
天人のまとへる衣(きぬ)はかくなれや
青を透かして雲の渡らふ
八尾 南口 一二美
山くだる風に交わるあか秋津
涼気満ちたり冷房のごと

小春日の匂ひほのかに残しつつ
古き土壇に午後のぬくもり
夕暮れて季節を告げる白き風
木の葉揺らして通り過ぎゆく
千枚田の美しき切り株能登めぐり
餌をついばむ白鷺の見ゆ
大阪 中瀬 央子
夕暮れて季節を告げる白き風
木の葉揺らして通り過ぎゆく
千枚田の美しき切り株能登めぐり
餌をついばむ白鷺の見ゆ
大阪 中瀬 央子

君が代に上がる日の丸いくたびや
オリンピックの風にふかれて
長野県 坂井田 礼子
窓越しの椅子に腰掛けふと気付く
背は暖かく陽気かはれり
東大阪 中山 里江
八尾 忠津 清治
神戸 鈴木 敬子
小春日の匂ひほのかに残しつつ
古き土壇に午後のぬくもり
夕暮れて季節を告げる白き風
木の葉揺らして通り過ぎゆく
千枚田の美しき切り株能登めぐり
餌をついばむ白鷺の見ゆ
大阪 中瀬 央子

鎮花祭雅楽奉納

万花咲き誇るこの季節は、人々の
心もつい緩みがちで様々な災厄が生
じやすい時期でもあります。

私たちの祖先はこれを花の精霊の

仕業と考えました。そこで奈良時代の「神祇令」には、舞い散る花に乗って、四方に飛ぶ精霊を鎮め国民の平安を祈念する「鎮花祭（はなしすめのまつり）」が国の大祝として規定されました。

当宮におきましても、
「鎮花祭」は古来より厳肅に齋行され、毎年四月二十
五日には、本殿の祭儀を中心に行
く雅楽・奉納武道演武・舞踊など様々な神賑行事が奉納されます。

管平調黄鐘調
大阪天満宮神職
音取「越殿樂」
君が代



浪速神樂
「式神樂」
大阪天満宮神職・巫女



社伝神樂「珍らしな」



舞樂 関西雅楽松風会
「蘇莫者」



浪速神樂
「鈴扇」



毎月二十五日限定

天御守（あめのみまもり）

性に富んだ授与品が、数多く奉製されています。

当宮においても、昨年十月二十五日から『天御守』（あめのみまもり）の頒布を始めさせていただきました。



『天御守』は、御祭神・菅原道真公の縁日である毎月二十五日限定で授与される、特別な御守でございます。道真公が明き清き誠心をもつて生涯を貫かれたことに鑑み、その御神徳にあやかり何事にも負けない強い心をもてるよう『心力向上』を祈念しております。

意匠としては、純白な縮緬で縫製した御守の中央には金箔による『天』の一文字が御守の見栄えをより一層引き立てております。この特別な御守を通して、皆様が充実した生活をお過ごしいただけますよう心より御祈念申し上げます。

当宮には、合格守・学徳守を中心とし、身体健全守、交通安全守、御神札などの普遍的な授与品を揃えていますが、それらとは別に時代の変化に応じた新たな授与品・御守も日々に準備しています。

現在では、各地の神社仏閣でも、有名な企業やデザイナーと連携した御守、さらには宝石を使用した御守など、参拝者の想いに応えるべく多様な工夫して作られた御守や、有り難いです。

境外の天満宮・天神祭（二）

国際会議場の綾帳

家の「天神祭の風景を描いた日本画を是非、会議場の天井にも」というご提案により実現したそうです。

これらの絵は、メインホールおよび特別会議場に入らなければご覧いただけませんが、特にメインホール

宮に縁ある画像などを逐次紹介したいと思います。第一回目は、中之島の大坂国際会議場（グランキューブ大阪）です。

そのメインホールの綾帳（高さ9m、幅二十三m）には、天神祭の風景を織り込んだ綾帳が掛けられ、また特別会議場のドーム型天井の四方に配された四点の絵のうち、三点も天神祭の絵なのです。これらは全て、明治～昭和の大坂で活躍した日本画家・生田花朝女（一八八九～一九七八）の作品です。

綾帳は「天神祭船渡御」（昭和二十九年、大阪府蔵）を織り込んでいます。天井画は、綾帳と同じ「天神祭船渡御」と、「天神祭」（年不詳、大阪府立中之島図書館蔵）と、「天神祭御迎人形船列之図」（昭和四年、当宮蔵）です（もう一枚は、住吉大社「御田植神事」の図です）。

綾帳については、当初から天神祭の絵とすることが決まっていたそうですが、会議場の天井画はもともとの計画にはなかつたのが、ある篤志

の頃から、街中に散見される、当宮に縁ある画像などを逐次紹介したいと思います。第一回目は、中之島の大坂国際会議場（グランキューブ大阪）です。

そのメインホールの綾帳（高さ9m、幅二十三m）には、天神祭の風景を織り込んだ綾帳が掛けられ、また特別会議場のドーム型天井の四方に配された四点の絵のうち、三点も天神祭の絵なのです。これらは全て、明治～昭和の大坂で活躍した日本画家・生田花朝女（一八八九～一九七八）の作品です。



メインホールの綾帳「天神祭船渡御」



当宮のマスコットガール「なつちゃん」こと、大田菜月さんをご紹介いたします。なつちゃんは、毎日のように当宮をお詣りされ、その境内を元気に走り廻る姿には、私たち神職・巫女も癒されています。

そして、当宮の様々な年中行事にご奉仕いただきました。



その頃の宮司さんは寺井種茂様、権宮司は星見昊様・今の寺井種伯



その後、青年になつて源藏町（西天満三丁目付近）の大きな雑穀商である本出商店に務めることになりました。当時の天満宮には神鳩がいて神鳩用に「鳩豆」が販売されていましたが、この鳩豆となる大豆を奉納していました。

これからも、絵馬集めと、天神祭船渡御のご奉仕をさせていただき、私なりの天神信仰を続けることができれば幸運でございます。

天神の天神さんと私(2)

私は昭和七年十二月に現在の天神橋三丁目商店街で生まれました。子供の頃の遊びといえば、天神さんの亀の池（星合池）で亀をとつて持ち帰り、父に叱られて返しに行くというようなことでした。

天神祭船渡御での「支部船」の奉仕も、この頃からだつたと思いますが、今では家族親族を集めてご奉仕しており、一度に皆が集まることができましてうれしく思います。

名譽宮司様もおられました。「鳩豆」担当の佐藤さん、稻住さんにはお世話になります。可愛がつて戴きました。十六年間収集を続けております。

絵馬集めと船渡御のご奉仕

植西晃二

境内の「猿まわし」



当宮では、平成二十九年から主に土日祝日の境内で「猿まわし」を催しています。猿まわしは、千年以上の長い歴史をもつ伝統芸能です。古来より猿は神の使いとされており、牛や馬を病気から守るために行われていた「猿の舞」から、現在の大道芸の形に発展しました。「災難が去る(猿)」「病気が去る(猿)」などの語呂合わせにより、縁起のいい催しとされています。

●猿まわしのやりがいと苦労

ご奉仕いただいている(株)仁助企画のトレーナーさんにお話を伺いました。

お猿さんが、竹馬乗りや逆立ちで階段を昇降するなどの技が成功すると、参拝者の皆さんから予想以上に拍手喝采いたぐりに、嬉しく感じるとのことでした。

また、合格祈願の受験生たちは、「何事にも勝る(真猿)」という願を担いで猿まわしを見物されるそう

ですが、ときには、受験生から志望校に合格したと報告を受けることもあります。そのときは猿まわし冥利尽きると言います。

一方で苦労されることも少なくないそうです。お猿さんは一歳くらいから練習を始め、平均、半年ほどで舞台デビューしますが、その間にトレーナーとの関係性を築くことが大変なのだとそうです。また、猿の個性に合わせて、叱る度合いや、褒める

タイミングを見極めるのも厄介なことのようです。

●新型コロナの時代だからこそ

新型コロナウイルスの流行から今まで三年目になり、大道芸にも苦難の時代となりました。しかし、こんな時代だからこそ、屋外の大道芸の意味があるのだと思います。トレーナーさんも「新型コロナウイルスが、一日も早く過ぎ去る」ように願掛けをしていたことでした。

「何事にも勝る(真猿)」という願を担いで猿まわしを見物されるそう

一月課題 御題 窓
美舟 石川繭 高松市

閑居風入早梅香 影動簾簾漏日光
翦翦輕風蘇萬物 碧波淡海看雲生

《訓読》四山 隠見 紅桜乱る 三月

《訓読》閑居 風入り 早梅の香

影動き 簾を褰(かか)げれば 日光

漏す。庭際 鶯歌 音 更に好し

心開き快飲杯觴を把る。

《通釈》閑居の(窓)に風が早梅の香

りをはこんできて、簾(窓)をかかげ

れば日の光が漏れる。庭前で鳶が鳴

いていて、心の窓を開きながらお酒

を戴いている。

《通釈》四方をめぐらす山々、見え

隠れる桜の花。三月(旧暦)の早朝

は湖水は光りを返している。軽やか

に吹く風は万物を蘇らせるようで、

碧波の淡海(湖)が雲を生んでいるよ

うだ。

浪速管廟吟社詠草
雪枝 松村暁二撰

三月課題 湖山春曉

琴鈴 和田啓子 伊丹市

四山隱見亂紅櫻 三月清晨照水明

翦翦輕風蘇萬物 碧波淡海看雲生

《訓読》四山 隠見 紅桜乱る 三月

《訓読》閑居 風入り 早梅の香

雲の生ずるを見る。

二月課題 書齋瓶梅

柏春 中島結樹 川崎市

息渚漱泉幾過矼 深溪開處吠村杉

潺潺春響近柴戸 鶯語相和幽墅窓

《訓読》

渚に息息泉に漱ぎ

幾たび

か矼を過る

深溪開く處

村杉吠え

る 潺潺たる春響

柴戸に近く 鶯

語相和す

幽墅の窓に

《訓読》

渚に息息泉に漱ぎ

幾たび

か矼を過る

深溪開く處

村杉吠え

る 潺潺たる春響

柴戸に近く 鶯

語相和す

幽墅の窓に

《通釈》

水辺で憩い、何度か飛び石

の橋をわたった。深い谷間が開け犬

の音は柴戸(隠者)の家)に春を響か

せ鳶は窓に鳴く。

《通釈》

近江八幡市とその周辺で、古来より行われる「葦焼き」の行事について。この行事は、主に青葦を御奉納いただき、毎年の七夕祭の茅輪や、天神祭の茅輪・葦きよくするため、また害虫を駆除することが目的だそうです。

「古事記」や「日本書紀」などには、日本のことを「豊葦原の瑞穂の國(とよあしはらのみずほのくに)」と記されています。「葦原」は我が国の原風景なのです。そして、当宮の神事も、その「葦」と深い関わりを持つているのです。

去る三月中旬、近江八幡市円山地域の葦畠で、葦焼きが行なわれました。近江八幡市と言えば、水郷で有名ですが、この葦焼きも、早春の風物詩として広く知られた行事です。

葦焼きは、古い葦を焼き新芽の芽吹きをよくするため、また害虫を駆除することが目的だそうです。



近江八幡市の葦焼き

そして、この地域の葦畠からは、宮に青葦を御奉納いただき、毎年の七夕祭の茅輪や、天神祭の茅輪・葦きよくするためだそうです。

近江八幡和船組合様、西川様より当薦に使用させていただいています。



天満宮スカウト活動日誌

三月 ビーバー隊 工作、ハイク(万

博公園)。カブ隊 昔の遊び、ハイク(毛馬公園)。ボーイ隊 立ちかま

ク(ポンントハイク(大阪城公園))。

各月 ベンチャーチーム(個人)進級に

取り組む。ローバー隊 各隊活動支

援。

◆天満宮スカウト合同行事

十一月 育成会餅つき大会で、奉納

用の鏡餅をリーダーがつくるのを見

で見学。ローバー隊は保護者向け

にYouTubeのライブ配信、募集集会

「わくわく自然体験」を実施

一月 元始祭参列・新年参拝及び互

例会は人数を絞り参加。

◆ボーアイスクアウト大阪九十八団

九月 ビーバー隊 基本動作。カブ

隊(在)仮想ハイキング、防災マッ

プ。ボーイ隊(リ)ゴミ拾い、地図。

十月 ビーバー隊 境内ハイク、工

作。カブ隊 カブブック、パターワー

ク。ボーイ隊 歩測、サイクリング。

十一月 ビーバー隊 工作、ハイク

(深北緑地)。カブ隊 パター大会、

ハイク。ボーイ隊 野外料理、救急。

一二月 ビーバー隊 カブ隊 スケ

ッチ(天王寺動物園)。ボーイ隊 地

区技能大会(くろんど園地)。

一月 ビーバー隊 プラネタリウム

工作。カブ隊(在)ランタン作り。

二月 ビーバー隊(在)テキスト。

カブ隊(在)パフェ作り。ボーイ隊

(リ)キムス・手旗、チーフリング

作り。

◆ガールスカウト大阪府八十一団

九月 全部門(在)防災食。

十月 ブラウニー部門 プロフィー

ルカード作成、レインコートに作画。

ジュニア部門(在) レインコート

に作画。シニア・レンジャー部門

ブラウニー手伝い、紙芝居作り。

十一月 ブラウニー部門 ジュニア

部門 大阪城まで遠足。クラフト

シニア・レンジャー部門 ブラウニ

ー手伝い、なたの使い方。

一二月 全部門 今昔館で昔体験。

二月 全部門(在)シンキングディ。

シニア・レンジャー部門 盆梅展見

学、神道章講習会。

三月 各部門 バッジ授与式、フラ

イアップ式。

※(在)は在宅プログラム、(リ)はリ

モート集会のこと。

◇大阪天満宮スカウトは隨時入団募集をしています。お問い合わせは当宮社務所までお願いいたします。

人事任免

《昇進》

禰宣
糸数
権禰宣
中村
允宜
仲
真矢



事務職
渡邊
悠



當緒職
北野
圭将

禰宣
糸数
権禰宣
中村
允宜
仲
真矢

巫女
島田
唯可



《転任》

禰宣
岸本
政夫

大阪
素盞烏尊神社へ

禰宣
糸数
昌史

大阪
泉尾神社へ

禰宣
三上昂太
大阪
船待神社へ

禰宣
田中
義将

伊勢山皇大神宮へ

神奈川

巫女
守澤
亜梨沙

巫女
永里
歩花

《退任》
事務職
岩田
宗大

令和四年三月三十一日付

《退任》
事務職
岩田
宗大

令和三年九月三十日付

斎行しました。今年はどのような姿での斎行が可能かを真剣に議論しておりますが、最終決定のご報告は今しばらくお待ちください。

◆ 昨今のような対面の機会が制約される今だからこそ、当社報の在り方も問われるよう思います。当宮の中行事の告知などに止まるのではなく、視野を広げて、皆様のご興味ご関心に応えねばと考えております。その一つの試みが、今号から始まつた連載「境外の天満宮・天神祭」です。街中には、大阪市街を描いた壁画などに当宮が描き込まれていたり、天神祭の絵画が緞帳などに利用されており、天神祭の絵画が緞帳などに利用されており、天神祭の絵画が緞帳などに利用されています。それらを紹介する連載です。皆さまもお気づきの場面がありましたら、ぜひ社務所までご一報ください。

編集後記

大阪天満宮社報

てんまでんじん 第81号

令和4年5月10日印刷

令和4年5月15日発行

発行人 寺井種治

発行所 大阪天満宮社務所
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-1-8

TEL 06-6353-0025

令和四年四月一日付

◆ 三年目となつた新型コロナ禰宣
が、未だ先行きは不透明な情勢です。
それに伴い、今年の天神祭について
のお尋ねも増えてきました。

一昨年・昨年の天神祭は、神賑行
事を自粛し、本殿での神事を中心に

印刷所 木村印刷株式会社